

国語科 学習指導案

- 1 単元名 いにしえの心にふれる 古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える
- 2 教材名 蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から
- 3 単元の目標

知識及び技能	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。【言語文化（3）ア】
思考力・判断力・表現力	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。【C読む（1）イ】
主体的に学習に取り組む態度	・進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像したり、思いや考えを伝え合ったりしようとする。【学びに向かう力、人間性等】

4 単元について

単元を貫く課題	単元導入時の指導	単元終末時の指導
古文を何度も音読し、登場人物の心情や場面の展開を味わいながら、「現代に通じる古典の魅力」について探ろう。	音読を通して歴史的仮名遣いに対する苦手意識をなくす。 既知の「お話」と比べた際の感想や疑問を大切にします。	時を超えて語り継がれる古典の魅力（ 優れぬ人々の思い結しての面白さ ）について考え、他の古典作品についても興味を広げる。

5 指導計画

時	・本時のねらい	評価規準【 】	◎課題
1	・くり返し音読することを通して、古文のリズムを味わいながら、言葉の意味や訓読の仕方などを知り、古典の世界に親しむことができる。 ◎自分の知っている「お話」と比べながら、くり返し音読をし古文のリズムに慣れよう。		【知識・技能】
2	・音読を重ねながら、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 ◎語り継がれてきた「古典」の魅力を探ろう。①―かぐや姫誕生編―		【思考力・判断力・表現力】
3	・音読を重ねながら、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 ◎語り継がれてきた「古典」の魅力を探ろう。②―悲しき五人の貴公子編―		【思考力・判断力・表現力】
4 (本時)	・音読を重ねながら、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 ◎語り継がれてきた「古典」の魅力を探ろう。③―さらば愛しきかぐや姫編―		【思考力・判断力・表現力】
5	・他の古典作品についても発想を広げることを通して、言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化について、思いや考えを伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 ◎語り継がれてきた「他の古典作品の魅力」について、考察班ごとに研究をしよう。		

6 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、「言葉による見方・考え方を働かせながら、語り継がれてきた古典の魅力に迫る姿」である。

本教材は、「ファンタジー要素溢れる有名な冒頭場面」と「滑稽さに満ちた貴公子たちの冒険談」、「かぐや姫の昇天とその後の顛末」の大きく三つから構成されており、「原文」にも触れることができるなど、「本格的な古典との出会い」の工夫がなされている。また、この三つの構成は「異常誕生譚（「桃太郎」や「一寸法師」「金太郎」など不思議な出生の話）や「難題婿譚（「古事記」や「ギリシャ神話」「仏教説話」など難題をクリアすることで望む結果を得る話）、「天人女房譚（「羽衣伝説」や「浦島太郎」「鶴の恩返し」など異界の女性と結ばれる話）」など、民俗学的な側面から捉えることもでき、そうした視点を「入り口」とすることで、広く言語文化としての「古典全般の魅力」に迫ることもできる「可能性に満ちた教材」であると言える。

その一方で、生徒たちの中には、「古典＝過去の産物、現在とは関係の薄い難しそうなもの」といった意識をもつ生徒がいることも考えられる。そこで、本時に至るまでの「手立て」として、何度も音読を繰り返すことで「苦手意識」をなくすことや、『竹取物語』がもつ神秘性や滑稽さ、冒険、愛、浪漫などの要素に焦点を当て、「他の古典との類似性」を考えたり、「時代を超えて共感できる要素」について交流したりすることで、作品に親しめるように指導を重ねてきた。

本時は、かぐや姫の昇天とその後の顛末が語られる場面である。導入では、「かぐや姫チーム」、「翁チーム」、「帝（兵士など）チーム」で心情を読み深めることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を目指す。展開では、かぐや姫や翁、帝、それぞれの思いを多面的に交流し合ったり、視野を少し広げて、作品の終わり方についての感想を交流し合ったりすることを通して「思考の広がりや深まり」を目指す。終末では、導入時と比べての「自身の変容」について振り返ることを通して「深まりや高まりの実感の場」としたい。

7 本時のねらい

音読を重ねながら、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。

8 本時の展開

過程	◇学習活動 ・生徒の意識、思考	◇教師の指導 等
導入	1 帯学習（音読を通して作品に親しむ活動） ◇冒頭部分の群読（暗唱チャレンジ）と最終場面の音読（速読や翻訳読み）を通して、古文に親しむ。 ・前回よりもスラスラ読めるようにするぞ。 ・言葉の意味を確かめながらリズムよく読もう。 2 課題づくり 全体課題：語り継がれてきた「古典」の魅力を探ろう。③—さらば愛しきかぐや姫編— ◇全体課題に迫るための個人課題を設定する。 ・前回は「貴公子の立場」で読み取ったけど、「翁の立場」で読んだ仲間の意見に深く共感できたから、今日は「翁の立場」で読み深めてみよう。	□有名な「冒頭部分」は、毎時間音読をくり返すことで、古文のリズムを体に染み込ませる。 □最終場面の音読については、慣れない言い回しに慣れさせるために、あえて「速読」を行ったり、言葉の意味とつなげて理解できるように、「部分音読とその翻訳」をクイズ形式で行ったりすることで、「苦手意識」を取り除く。 追究意欲を生み出す場の設定と指導 「かぐや姫の立場」や「翁の立場」、「帝の立場」の中から読み深めたい立場を選び、同じチームで読み深めることを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図る。
展開	3 前半追究 ◇「かぐや姫チーム」、「翁チーム」、「帝（兵士など）チーム」で心情を読み深める。 かぐや姫チーム：「（月に帰らなければ）なりません」とあるので、帰りたくないけど、月の都の人々の力も知っているから、もう…覚悟を決めたのだと思う。 翁チーム：「見かねた翁」とあるので、気づいていたけどそっとしていて、でも、放っておけなくなったということだから、本当の親子みたいに感じる。 帝チーム：自分の求めに応じないなんて、余計に気になると思う。月の都の人々に対して「二千人の兵士」を遣わせるなど、本気で愛していたのが伝わる。 4 後半追究 ◇各チームの意見を聞いて深まったことやさらにつなげて考えたいことなどを交流する。 ・かぐや姫が、翁と帝に遺した「品物の違い」から、その二人への「想いの違い」（翁には家族とか身内の立場から…帝には地上を見下ろす統治者の立場から…など）があるような気がして、興味深いな。 ・「富士山」の名前の由来が出てくるこの終わり方は妙な説得力もあり、「お話と現実」や「昔と今」などがつながるような感じでおもしろいな。	□生活班ではなく、読み深めたい立場ごとで班が作れるように、その場でグルーピングを行う。 □かぐや姫は…話の設定上「月の都の力の凄さを知っている」ことを確認する。また、「涙ながらに打ち明けた」や、「翁と帝にそれぞれ遺した品物の違い」などにも着目させる。 □翁は…話の設定上「かぐや姫と長年共に生活をしてきた」（からこそ気付けることがある）ことを確認する。「二千人の兵士」に守られつつも、かぐや姫の様子から感じたことはないか考えさせる。 □帝は…話の設定上、地上で最も権威ある存在だということを確認する。その帝がかぐや姫との結婚を「三年」も待ち、姫のために「二千人の兵士」を用意したことなどに着目させる。 思考の深まりと技能の高まりを生み出す指導 同じ場面でも、「かぐや姫」や「翁」、「帝」、それぞれの立場からその想いを交流することで、立体的にこの場面を味わうようにする。 また、この作品の終わり方について、「共感できるか否か」や「他の作品と比べてどうか」など、視野を作品全体に広げるような意見交流を通して、思考の広がりや深まりを目指す。
終末	5 振り返り ◇課題に対する振り返りを行う。 ＜教師が願う生徒の振り返り＞ ・「いまだに立ち昇っている富士山の煙」は、「帝」や「翁たち」の「かぐや姫」への想いのような気がするな。ロマンチックな想像ができたし、時代を超えて共感し合えたりできるところが、語り継がれてきた古典の魅力だと思う。 ・色々な立場に立って、その立場から作品を多面的に味わうことができるのが古典の魅力だと感じた。鬼の立場から『桃太郎』の話を見たらどうなるだろう…とか、他の作品でも、色々と考察をしてみたいな。	思考の深まりと技能の高まりを実感する指導 導入時と比べて本時深まったこと（登場人物の心情）について振り返り、その上で「語り継がれてきた古典の魅力」について考えることを通して、深まりや高まりの実感の場とする。 □本時深まったことを、「語り継がれてきた古典の魅力」とつなげて書くように助言する。 【評価規準】 音読を重ねながら、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 【思考力・判断力・表現力】

社会科 学習指導案

- 1 単元名 これからの人権保障
- 2 教材名 新しい人権② 情報化の進展と人権
- 3 単元の目標

知識及び技能	・社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解することができる。
思考力・判断力・表現力	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	・社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

4 単元について

単元を貫く課題	単元導入時の指導	単元終末時の指導
新しい人権が認められてきたのはなぜだろう。	社会の変化を明らかにし、その変化の中でどのような人権を認める必要が出てきたのか意識できるようにする。	社会の変化に伴い新しい人権が認められてきた理由を、個人の尊重と法の支配に着目して、明らかにできるようにする。

5 指導計画

時	・本時のねらい	評価規準【 】	◎課題
1	・環境権や自己決定権についての資料を調べることを通して、産業や科学技術の発展に伴って認められてきた権利を理解することができる。		【知識・技能】
	◎産業や科学技術が発展して、どのような権利が認められてきたか。		
2	・知る権利やプライバシーの権利についての資料を調べることを通して、情報化の進展に伴って認められた権利を理解することができる。		【知識・技能】
	◎情報化が進み、どのような権利が認められてきたのか。		
3 (本時)	・インターネット上の表現の自由の制限について考え、交流することを通して、情報社会にどのように関わっていくか「表現の自由」「個人の尊重」に着目して、多面的に考察し表現することができる。		【思考力・判断力・表現力】
	◎インターネット上の表現の自由はこれ以上制限すべきだろうか。		
4	・人権上の課題の解決に向けてどのような取組がなされてきたか考察し、表現することができる。		【思考力・判断力・表現力】
	◎国際社会では人権の課題の解決に向けてどのような取組がされてきたか。		
5	・現代社会に見られる課題の解決に向けて、学習を振り返り、人権の尊重と日本国憲法に着目して、自分がこれからどのように社会に関わっていきたいか考えることができる。		【主体的に学習に取り組む態度】
	◎社会の中の課題について、自分はどのように関わっていくか。		

6 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は「インターネット上の表現の自由の制限について考え、交流することを通して、情報社会にどのように関わっていくか『表現の自由』『個人の尊重』に着目して、多面的に考察し表現する姿」である。

本時の導入では、前時の終末を想起させ、課題を確認する。前時の終末にはインターネット上の人権侵害の件数が増えてきたことや実際の事例をもとに、「インターネット上の表現の自由はこれ以上制限すべきか」と問い、一人一人どう考えるか立場を明確にさせる。そして展開では異なる立場の人と交流し、相手の意見を聞いて自分の意見を深めていく。またグループで話し合った後、全体交流で教師が意図的に意見の変容がある生徒と変容がない生徒の意見を取り上げ、なぜそう考えたのか問い、どのような意見でも「表現の自由」「個人の尊重」の両面を考えた上で判断していることを明らかにし、生徒の見方を広げたい。終末では本時で学んだことを踏まえ、自分の意見の変容を明らかにし、その理由を「表現の自由」「個人の尊重」の両面から考えた上で、これからの情報社会の中でどのように生きていくのか記述することで、本時のねらいを達成できるようにしたい。

7 本時のねらい

インターネット上の表現の自由の制限について考え、交流することを通して、情報社会にどのように関わっていくか「表現の自由」「個人の尊重」に着目して、多面的に考察し表現することができる。

8 本時の展開

過程	◇学習活動 ・生徒の意識、思考	□教師の指導 等
導入	1 課題づくり ◇前時の終末を想起し、課題を確認する。 【予想される授業前の生徒の意識】 インターネットの普及が進み、SNSなどで誹謗中傷やプライバシーの侵害が増えており、自分の権利を守るためにはより規制が必要かもしれない。しかし、表現の自由が制限されるとインターネットの自由な雰囲気がなくなってしまう。これからの社会でどの様に自分の権利と生き方を考えていけば良いか。 インターネット上の表現の自由はこれ以上制限すべきだろうか。	□前時の終末、インターネットの普及によりインターネット上の人権侵害の件数が増えてきたことを提示し、課題を生み出す。また自分はどうか立場を明確にさせたうえで、どのようにしていくべきか考えさせる。 □立場を考える際には、現在の制限の状況（法）、憲法、判例などを紹介し、意見をつくらせる。 追究意欲を生み出す指導 情報社会にどのように関わっていくか考えていくために、インターネット上の人権侵害の件数が増えてきたなどから、「インターネット上の表現の自由はこれ以上制限すべきか」と問う。
展開	2 前半追究 ◇異なる立場の人と交流し、意見を深める 【制限すべき】 ・憲法 13 条には「すべて国民は、個人として尊重される」とされているから、人の権利を侵害するような行為は制限すべき。特にインターネット上は簡単に投稿ができるから、不適切な文章を投稿できないように機能を制限すべき。 ・制限しすぎると「表現の自由」もなくなるので、アカウントの一時停止ぐらいがいい。 【制限すべきではない】 ・憲法 21 条に「集会、結社、及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する」と書かれており、自己表現は制限されるべきではない。投稿自体を禁止することは民主主義じゃない。 ・行きすぎた表現はよくないかもしれないが、もし投稿しても今の法律で投稿者は公開される。 3 後半追究 ◇交流を聞いて、立場が変化したかどうか理由を含めて明らかにする。 ・最初は制限すべきだと考えていたが、意見を聞いて制限は限定的にすべきだと思った。なぜならば、「個人の尊重」も大切だが、「表現の自由」を過度に規制すると自分が大切に思っていることも言えなくなってしまうから。 ・やはり表現の自由は制限すべき。なぜならば「表現の自由」が自己表現のために大切なのは分かるが、このままだと行き過ぎた表現によって「個人の尊重」が侵害され、多くの人が傷ついてしまうから。	□事前に異なる立場で意見交流ができるようにグルーピングをしておく。 □議論の際には、相手の意見から自分の意見を深めることが目的であることを確認する。 □法を根拠にしつつ、現在の状況を踏まえて意見を伝えるように説明する。 □意見交流の際には、1 人ずつ意見を話し、その中で相手の主張で「なるほど」と思ったところ、「疑問」に思った部分をワークシートに記入する。話し終えたら、順番にその点について話したり、質問したりする。 思考の深まりと技能の高まりを生み出す指導 生徒の見方を広めるために、意見の変容が見られる生徒と変わらなかった生徒を全体で取り上げ、どのような意見でも「表現の自由」「個人の尊重」の両面を考えた上で判断していることを明らかにし、その判断を価値付ける。 □意見が変容したかどうか、理由を含めて書いたものをロイロノートで提出させる。
終末	4 振り返り ◇学びを振り返る。 ＜教師が願う生徒の振り返り＞ 今日の話し合いを通して、初めの意見と同じく、やはりインターネット上の人権侵害が増加する中で、表現の自由はより制限されるべきだと感じた。それはインターネットが発達して投稿が容易になり、行き過ぎた表現の自由が憲法に規定された人権の尊重を侵害しているからだ。法を強化していく必要を感じるが、表現の自由を完全に無くすべきでもないと思うので、慎重に判断していかなければいけない。自分は情報社会で、表現の自由を行使していく際には、相手を傷つけないか（法を守れているか）考えていきたい。	深まりと高まりを実感する指導 本時に学んだことを踏まえて、情報社会への関わり方を考えさせるために、自分の立場と意見の変容を明らかにし、その理由を「表現の自由」「個人の尊重」の両面から考えた上で、自分がこれからの情報社会の中でどの様に生きていくか法と権利を基に記述できるようにする。 【評価規準】 情報社会への自分の関わり方を、「表現の自由」「個人の尊重」に着目し、多面的に考察し、表現することができる。 【思考力・判断力・表現力】

数学科 学習指導案

1 単元名 「相似と比」

2 単元の目標

知識及び技能	- 平面図形の相似の意味、及び三角形の相似条件について理解することができる - 基本的な立体の相似の意味、及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解できる。
思考力・判断力・表現力	- 三角形の相似条件などを基にして、図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 - 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。 - 相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。
主体的に学習に取り組む態度	- 相似な図形の性質のよさを実感し、粘り強く考えようとしている。 - 図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 - 相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとしている。

3 単元について

単元を貫く課題	単元導入時の指導	単元終末時の指導
相似な図形の性質を使って、図形の新しい性質を見付け、証明しよう。	小学校第6学年の縮図・拡大図の学習を基に、相似の意味を理解し、相似な図形に関心がもてるように指導する。	日常生活や社会の事象における問題を相似な図形の性質を活用して解決し、論理的に説明できるように指導する。

4 指導計画（第1節）

時	・ 本時のねらい	評価規準【 】	◎課題
1	2つの図形が相似であることの意味を理解し、2つの図形が相似であることを、記号$\sim$を使って表すことができる。		【知識・技能】
	◎図形を拡大・縮小することの意味を考えよう。		
2	2つの図形が相似であることの意味、相似な図形の性質を理解し、相似な図形の相似比、対応する線分の長さや角の大きさを求めることができる。		【知識・技能】
	◎相似な図形の性質を使って、線分の長さや角の大きさの求め方を考えよう。		
3	相似の位置や相似の中心の意味を理解し、相似の位置にある図形をかくことができる。		【知識・技能】
	◎相似な図形の書き方を考えよう。		
4	三角形の合同条件を基にして、2つの三角形が相似になるための条件を見いだすことができる。		【思考力・判断力・表現力】
	◎三角形の合同条件を基に、三角形の相似条件を考えよう。		
5 (本時)	2つの三角形が相似であるかどうか判断する活動を通して、相似と考えられる三角形の向きをそろえたり、取り出したりして、対応する辺や角に着目すればよいことに気づき、三角形の相似条件を使って、相似かどうか判断できる。		【思考力・判断力・表現力】
	◎三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であるかどうか判断しよう。		
6	三角形の相似条件を使って2つの三角形が相似であることを考えたり、証明をふり返って新たな性質を見いだしたりしようとしている。		【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】
	◎三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であることを証明しよう。		

5 本時の指導の構え

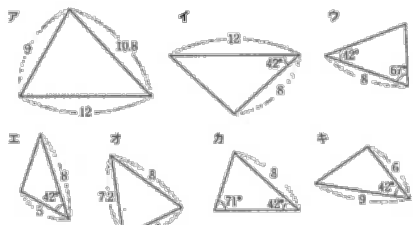
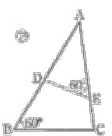
本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、「三角形の相似条件を根拠に、2つの三角形が相似かどうか判断でき、仲間に伝える姿」である。

本時の導入では、2つの三角形が相似であるかどうか考える活動を通して、課題解決のための見通しをもてるようにする。どの相似条件を用いればよいか判断するためには、2つの三角形の対応する辺や角に着目する必要があることに気付けるようにする。展開では、2つの三角形の向きをそろえることと1つの図形の中に相似な三角形がある場合は、三角形を取り出す活動をすることで、対応する辺や角を見やすくすることができることに気付かせ、数学的な見方・考え方を深めていきたい。終末では、小グループで交流を行うことで、本時の課題が達成できたと実感できるようにしていく。

6 本時のねらい

2つの三角形が相似であるかどうか判断する活動を通して、相似と考えられる三角形の向きをそろえたり、取り出したりして、対応する辺や角に着目すればよいことに気づき、三角形の相似条件を使って、相似かどうか判断できる。

7 本時の展開

過程/指導	◇学習活動 ・ 生徒の意識、思考	□教師の指導 等
導入	1 課題づくり 問 次の三角形のなかから相似な三角形の組を見つけなさい。また、その時使った相似条件をいいなさい。  三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であるかどうか判断しよう。	追究意欲を生み出す指導 生徒に本時の課題追究の足場をもたせるために、対応しそうな辺と角に着目して、どの三角形の相似条件が使えるのか考える必要があることを気付けるようにする。 □生徒が課題設定をするために、問題理解をする活動を通して、わかることや求めたいこと、既習内容とのつながりなどを考えられるようにする。 □前時に学習した三角形の相似条件を確認する。
展開	2 前半追究 ◇問題解決をする。 (個人追究→グループ交流→全体交流) ・アとオ→3組の辺の比がすべて等しい。 ・イとキ→2組の辺の比が等しく、その間の角が等しい。 ・ウとカ→2組の角がそれぞれ等しい。 ・向きをそろえたと分かりやすい。 ・ウとカは、相似な三角形ともいえるし、合同な三角形ともいえる。 3 後半追究 ◇1つの図形の中から相似な三角形を見いだす活動をする。 問 右の図アで、相似な三角形を見つけよう。 ・仮定より、$\angle ABC = \angle AED$ ・共通な角より、$\angle BAC = \angle EAD$ ・$\triangle ABC$と$\triangle AED$が、2組の角がそれぞれ等しいから相似。 ・$\triangle AED$を取り出してかくと分かりやすい。 	□Q1では、デジタル教科書を用いて、図の向きを合わせるということを視覚的支援し、理解させる。 思考の深まりと技能の高まりを生み出す指導 向きをそろえたり、図を取り出したりすることで対応する辺や角を見やすくすることができると気付けるようにするために、効果的な中間交流を行ったり、全体に広めたい考えを板書し価値付けを行う。 □対応する辺や角を色や記号で書き示している姿を価値付ける。 □机間指導では、グループ内で相似だと判断できる理由を互いに交流させる。そうすることで、終末の活動で説明できる生徒を目指す。 □ウとカが合同であることや対応順で書くことの良さなどを考えられるようにする。 □余裕があるグループには、発展問題を提示し、より個に応じた学習が選択できるようにする。
終末	4 振り返り ◇2つの三角形が相似であるか判断するためには、どうしたらよいかを考える。 〈教師が願う生徒の振り返り〉 向きをそろえたり、図を取り出したりして、対応する辺や角が分かりやすい。次に、三角形の相似条件に当てはめて考えればよい。 5 評価問題【Q2(2)(3)】 (個人追究→全体交流→グループ交流) ・(2)共通な角より$\angle ABC = \angle EBD$である。また、$\angle ACB = \angle EDB = 90^\circ$である。よって、2組の角がそれぞれ等しいので、$\triangle ABC = \triangle EBD$である。	□課題解決をするためにはどうしたらよいかという発問から、生徒の発言で本時に学んだことを明確にし、まとめにつなげる。 深まりと高まりを実感する指導 評価問題で自分の考えを説明する場を設定することで、深まりを実感させる。そのために、全体交流で論理的に説明できている生徒を価値付ける。 【評価規準】 三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であるかどうか判断できている。 【思考力・判断力・表現力】

理科 学習指導案

1 単元名 運動とエネルギー

2 教材名 第2章 力のはたらき方 第4節 水中ではたらく力

3 単元の目標

知識及び技能	・運動の規則性を日常生活や社会と関連づけながら、水中の物体にはたらく力や運動についての基本的な概念や法則などを理解し、科学的に探究するために必要な実験に関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けることができる。
思考力・判断力・表現力	・物体を水に沈めたときの浮力の大きさを比較することや浮力を体験することを通して、浮力の大きさが何に関係しているかを考え、解決したい問題を見いだすことができる。 ・水圧や浮力の規則性や関係性を見いだすために、根拠のある自分の予想をもち実験方法を、条件制御を大切にしながら考えることを通して、浮力の大きさが何に関係しているかを明らかにすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・水中の物体にはたらく力に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究する態度を養うとともに、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 単元について

単元を貫く課題	単元導入時の指導	単元終末時の指導
「浮力の大きさは、何によって決まるのか」について根拠を明確にして説明しよう。	「水中で物体にはたらく力」について、実験結果を根拠に生徒たちの疑問や明らかにしたいことを出し合い、集団でこれから学んでいきたい問題を明確にしていくように指導する。	単元の導入で提示した事象について、原理・法則を根拠として説明するように指導する。

5 指導計画

時	・本時のねらい	評価規準【 】	◎課題
1	・水の中に手を入れたり、身近な物体を水に入れたりするなど、水中ではたらく力を体験することを通して、水圧や浮力に関心を持ち、水中で物体にはたらく力の大きさが何によって決まるのか課題を見いだすことができる。 ◎物体は水中でどのような力を受け、どんなきまりがあるのだろうか		【主体的に学習に取り組む態度】
2	・うすいゴム膜を張った透明パイプを水に入れて、パイプの深さや向きを変えていくとゴム膜のへこみ方がどうなるのかを調べる活動を通して、水中にある物体は水圧を受け、それが水深によって変化することを理解することができる。 ◎物体は水中でどのような力を受け、どんなきまりがあるのだろうか		【知識・技能】
3	・課題に対する予想を立て、その理由を考え、学級で共有することを通して、次時の活動への見通しをもつことができる。 ◎水中で物体にはたらく浮力の大きさは、何によって決まるのだろうか		【思考力・判断力・表現力】
4 (本時)	・自己の予想を明らかにするための実験方法を考え、目的に合った条件制御ができているかを考えることを通して、浮力の大きさが何に関係するのかを明らかにする実験を計画することができる。 ・実験結果を比較することを通して、浮力の大きさが物体の体積に関係していることに気づき、浮力の大きさは、水に沈んだ物体の体積の大きさに関係していることを見いだすことができる。 ◎水中で物体にはたらく浮力の大きさは、何によって決まるのだろうか		【思考力・判断力・表現力】
5	・今までの実験結果から、浮力の大きさが何によって変化するのかを考察し、水中に沈む体積の大きさによるものであるときまりを見いだすことができる。 ◎水中で物体にはたらく浮力の大きさは、何によって決まるのだろうか		【思考力・判断力・表現力】

6 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、「浮力の大きさが何によって決まるのかを予想し、そのことを確かめる方法を仲間と共に立案、検証することを通して、自分の疑問を解決することができる姿」である。

生徒は生活の中で、水中で物体にはたらく水圧や浮力の関係について様々な体験をしている。その体験や既習事項をもとに、根拠のある予想を立て、課題に対し見通しをもった状態で本時の授業に臨みたい。本時の導入では、予想の解決に向けて、各自の疑問を明らかにするための実験方法を立案し、検証するために実験方法が妥当かどうかを検討し合う。「条件制御は正しくできているか」「他の場合でも同じになるかどうか」などの視点で、実験方法を立案することを促していきたい。結果交流の場面では、タブレット端末で各自の予想及び実験結果を共有し、他者の実験データも参考にしながら、生徒一人一人が浮力の規則性を見いだす環境整備を行いたい。また、終末では、「全員の予想を明らかにする実験はできたか」「条件制御は正しくできていたか」と、自分たちの実験結果を振り返るようにし、次時につなげるようにしたい。

7 本時のねらい

自己の予想を明らかにするための実験方法を考え、目的に合った条件制御ができているかを考えることを通して、浮力の大きさが何に関係するのかを明らかにする実験を計画することができる。また、実験結果を比較することを通して、浮力の大きさが物体の体積に関係していることに気づき、浮力の大きさは、水に沈んだ物体の体積の大きさに関係していることを見いだすことができる。

8 本時の展開

選/解	◇学習活動 ・生徒の意識、思考	□教師の指導 等
導 入	1 課題づくり ◇前時の学習内容及び、予想した内容の振り返りを行う。 ・浮力について考えた。浮力の大きさは水圧が関わっているかもしれないので、水に沈む部分の形も関係していると思う。 ・浮力の大きさは水に沈んでいる部分の密度が関係しているのではないだろうか。 ・ボーリング球も浮いたことから質量ではなく沈んだ部分の体積に関係するのではないか。 水中で物体にはたらく浮力の大きさは、何によって決まるのだろうか	追究意欲を生み出す指導 前時のふり返りのため、ボーリング球やレンガを沈めることなど教師が実演し、予想や学習内容の想起ができるようにする。 □すべての生徒が予想できていることを、前時までに確認する。「なぜそう考えたのか」「何によって浮力の大小がきまるのか」を確認するようにし、どのように調べれば疑問を解決できるのかを考えられるようにする。
展 開	2 前半追究 ◇自分の予想を解決する実験方法を考える。 ・物体を沈める深さ以外を統一して実験を行う。 ・物体の体積を変え、質量などを統一すれば体積が関係することが分かる。 ・質量以外を統一して実験を行う。 ◇実験方法を共有し、グループ（4人）ごとに取り組む内容と順番を確認する。 ・この条件では目的に合わないから少し変えよう。 ・より確かな結果を得るために何度も繰り返して実験をしよう。 3 後半追究 ◇各班で考えた実験方法をもとに検証を行う。	□課題の解決方法として正しくない例を提示し、「なぜダメなのか」を考えることで条件制御を考慮して計画できるようにする。 思考の深まりと技能の高まりを生み出す指導 実験方法を全体で交流する場を設け、他のグループの実験方法が妥当かどうかを検討することで「条件制御はこれでよいか」「目的とあっているか」などの視点をもって実験できるようにする。 □実験方法の共有の場では、班で自信がある内容を発表する場として、逆に自信がない内容など、他グループに意見を求める場として活用するようにする。
終 末	4 振り返り ◇結果をまとめ、予想と比較しながら分かったことをまとめる。 まとめ ・浮力の大きさは質量に関係なさそうだ。 ・体積が大きい方が浮力は大きくなりそうだ。 ・何度やっても同じ結果になったからこれは正しい結果と言えそうだ。 ・調べたいことが同じ班の結果と違う。なんで違うのかを考えてもう一度やってみよう。 <教師が願う生徒の振り返り>プリント記入 浮力の大きさは、沈む物体の体積によって変わりそうだ。条件制御を丁寧に言い実験したこと、結果から考察することができた。	□実験結果は、ICT 機器を使って常に更新し、各班が何の目的で実験し、結果がどうなったかを共有できるようにする。このとき、予想別に色分けを行うように指示をする。 深まりと高まりを実感する指導 「全員の予想を明らかにする実験はできたか」「条件制御は正しくできていたか」を視点に結果を確認するように机間指導する。また、上手く行かないところは次回どうするかを考えさせる。 【評価規準】 予想を明らかにするための実験方法を考え、目的に合った条件制御ができているかを検討することを通して、浮力の大きさが何に関係しているかを明らかにする実験を計画することができる。 【思考力・判断力・表現力】

音楽科 学習指導案

1 題材名 曲想を生かした表現

2 教材名 「サンタ ルチア」

3 題材の目標

知識及び技能	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解することができる。 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表現することができる。
思考力・判断力・表現力	・音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱としてどのように表現すればよいかについて、思いや意図をもつことができる。
主体的に学習に取り組む態度	・3拍子の雰囲気を感じ取り、強弱を生かした表現の工夫や原語の美しい響きに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、カンツォーネで親しまれているイタリア歌曲のよさを味わおうとしている。

4 題材について

題材を貫く課題	題材導入時の指導	題材終末時の指導
曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解し、曲にふさわしい表現を創意工夫して歌おう。	カンツォーネののびやかな美しい歌声に触れ、曲種に応じた発声に関心をもち、イタリアナポリ湾の風景やイタリア歌曲の演奏から雰囲気をつかむ場を位置付ける。	自分達の願う表現に近付けるために、発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）など、どのように高められたか仲間とよさを交流する場を位置付ける。

5 指導計画

時	・本時のねらい	評価規準【 】	◎課題
1	・イタリア歌曲の魅力を通して、曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解し、旋律の特徴を意識して歌うことができる。		【知識・技能】 ◎曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて知ろう。
2	・音色や旋律の働きによって生み出される雰囲気を感じ、曲想を生かした歌唱表現のためにどのように表すかについて思いや意図をもつことができる。		【思考力・判断力・表現力】 ◎表現を創意工夫したいフレーズを選び、思いや意図をどのように表すか考えよう。
3 (本時)	・思いや意図を表すために、発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などをどのように工夫したらカンツォーネの音色に近付けるのか意見交換したり、実際に歌い試したりしながら歌唱表現の技能を身に付けている。また、仲間の演奏のよさを知覚・感受することで学びを深め、音楽活動を楽しみながら取り組んでいる。		【知識・技能】【主体的に学習に取り組む態度】 ◎発声、言葉の発音、身体の使い方などを意識して、カンツォーネのような音色で美しく響かせよう。

6 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、「曲想を生かした歌唱表現にするために、仲間の演奏のよさを知覚・感受し、技能を身に付けながら思いや意図を表現する姿」である。前時は、音楽を形づくっている要素の音色や旋律の働きによって生み出される雰囲気を感じ、曲想を生かした歌唱表現のためにどのように表すかについて思いや意図をもつことができた。そして、カンツォーネののびやかな美しい歌声に憧れを抱き、どうすれば願う表現に近付けるのか問いかけることで、学ぶことに興味や関心をもち、主体的な学びがもてるようにした。

本時の導入では、「どんなことに気をつけて歌ったのか。」と問いかけることで、「思いや意図を歌唱で表現するためにもっとこういう歌い方をしてみたい。」と必然性のある課題へとつなげ、展開では創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などの技能をグループ内で交流しながら身に付けていく活動を取り入れていく。終末では、仲間との練習を通して技能を高めてきた自分達の歌唱のよさに気づき、なぜよさを実感できたかという理由も交流することで、学びを深められた自分達に自信がもてるようにしたい。

7 本時のねらい

思いや意図を表すために、発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などをどのように工夫したらカンツォーネの音色に近付けるのか意見交換したり、実際に歌い試したりしながら歌唱表現の技能を身に付けている。また、仲間の演奏のよさを知覚・感受することで学びを深め、音楽活動を楽しみながら取り組んでいる。

8 本時の展開

過程/時	◇学習活動 ・生徒の意識、思考	□教師の指導 等
導入	◇前時の学習を思い出し、「サンタルチア」を歌う。 1 課題づくり ◇「サンタ ルチア」の曲をどんなことに気を付けて歌ったか、自分達の思いや意図をもとに高めたい表現について視点をもち。 ・アクセントを意識しながら、明るく美しい音色で歌いたい。最後ののばす音はお腹で支えて、力強く響かせたい。 発声、言葉の発音、身体の使い方などを意識し、カンツォーネの音色で響かせよう	◇曲を流しながら歌う雰囲気をつくる。「どんなことに気を付けて歌ったの?」「それはどうして?」と問うことで、思いや意図を歌唱によって表現できるように、技能に関わるヒントを出しながら本時の追求意欲へつなげられるようにする。 追求意欲を生み出す指導 前時までに出た8分の3拍子など旋律の特徴や、のびやかで美しい響きを表現するために、映像や教師の範唱から、必要な発声・言葉の発音・身体の使い方（呼吸法）などの視点をもって歌唱表現を追求できるようにする。
展開	2 個人追求 ◇曲を流しながら、1人で歌う。 ・2段目の3小節目からはfでアクセントがついているけど、3段目の1小節目からはmpのスラーでなめらかになるから、強弱の変化をつけたいな。きっと美しさが際立つぞ。 3 グループ追求 ◇曲を流しながら3人（4人）グループで歌う。グループ活動の目的がもてるように、意見交換したり歌い試したりして練り合う。 ・〇〇さんの歌い方は、最後の終わり2小節では、フェルマータを生かしてのびやかな歌声で響かせていたから真似したい。腹式呼吸で大切に息を使っているから美しい。音ののばせるようにお腹の支えを意識したい。	□「美しく丁寧に歌えているね。アクセントがついている音はどんな発声や発音で歌えばいい? 息を素早く吸うとどんな歌い方になるかな?」などと価値付けをしたり、問いかけたりすることで、思考を深めながら技能を身に付けられるようにする。 思考の深まりと技能の高まりを生み出す指導 グループの発表時には、創意工夫したい部分をどのように歌いたいのか考えるために、発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などの音楽的スキルをどのように工夫すればよいのかについても発表し、仲間の歌唱を聴く視点をもてるようにする。
終末	4 振り返り ◇感想を交流することで、自分達の演奏のよさを実感し、最後に学級全体で歌う。 まとめ カンツォーネらしい音色で響かせるためには、息の使い方を工夫し、明るくのびやかな歌声を意識するとよい。 <教師が願う生徒の振り返り> ・2段目の3小節目からは、他との違いを出すために、アクセントの表現では、素早く吸って息を使って遠くにとばすことができた。 ・最後の終わり2小節では、お腹の支えを意識したことで美しくのばすことができた。	□イタリア歌曲ののびやかな美しい響きのよさを味わいながら歌うように促す。 深まりと高まりを実感する指導 思いや意図を表すために、歌唱表現をなぜ実感できたか、演奏のよさと理由を交流することで達成感がもてるようにする。 【評価規準】 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などの技能を身に付けている。【技能】 仲間の演奏のよさを知覚・感受することで学びを深め、音楽活動を楽しみながら取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

美術科 学習指導案

1 題材名 「心のイメージを形に ～印象や感情を表す～」

2 題材の目標

知識及び技能	・形や立体感、質感の組み合わせに着目してイメージをとらえ、石や用具の特性を生かして表す。
思考力・判断力・表現力	・感覚や感情などの表したいイメージをもとに、形や立体感、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりする。
主体的に学習に取り組む態度	・感情や感覚などの表したいイメージをもとに、形や立体感、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりする。

3 題材について

題材を貫く課題	題材導入時の指導	題材終末時の指導
自分の内面を見つめ、主題を生み出し、石彫の形や質感を生かして、意図に応じて工夫して表現しよう。	造形的な視点「具象」と「抽象」で表現された作品を鑑賞し、その相違点を探っていく。その活動を通して、それぞれの表現の魅力を見だし、自分の心（感情や感覚などのイメージ）を主題に表す。	感情や感覚などのイメージを形や立体感、質感に表すよさや美しさを感じる。美しい景色を見た時の感動などを例に、気持ちや印象の表現が生活を豊かにしていることとつなげる。

4 指導計画

時	・本時のねらい	評価規準【 】	◎課題
1	・具象表現と抽象表現の作品を鑑賞する。形や立体感、質感を視点に表現のよさや美しさを感じ取る。 ◎イメージを表した作品の良さについて考えよう。		【思考力・判断力・表現力】
2	・「自分の心」を見つめ、感情や感覚から主題を生み出し、そのイメージを言葉や形で表す。 ◎自分の心を見つめ、イメージを、言葉や絵で表そう。		【思考力・判断力・表現力】
3	・アイデアスケッチを通して、石を生かした立体的な形の表し方を考える。【思考力・判断力・表現力】 ◎アイデアスケッチをして、主題のイメージを立体的に表そう。		
4 (本時)	・作品に込めた「心のイメージ」をより表現する形の構成・質感や立体感の組み合わせを考え実物大にスケッチする。 ◎もっと「(自分の主題)」を表す形・質感・立体感を考えてスケッチしよう。		【思考力・判断力・表現力】
5	・彫りの高低差を意識した下絵を石に転写し、削る部分の確認をする。 ◎下絵を描き、削る部分を確認しよう。		【知識・技能】
6 7 8 9	・石を生かした表現方法や、道具の正しい使い方を理解し、道具を使い分けながら、計画的に削り進めていく。 ◎道具の使い方を理解し、道具を使い分けながら削ろう。		【知識・技能】
10 11	・石の感触や光沢の質感の違いに気付き、ヤスリで細部まで仕上げていく。【知識・技能】 ◎主題に合った形や質感にこだわって制作しよう。		
12	・作品の置かれる場所や撮る角度による印象の違いに気づき、自分の主題に沿った場所で写真を撮る。 ◎主題に合った場所や構図で写真を撮ろう。		【思考力・判断力・表現力】
13	・作品と写真から、主題を表すための表現の工夫を交流し、仲間の表現の工夫や作品のよさを味わおうとしている。 ◎仲間との交流を通して、表現のよさに気づき、見方や感じ方を広げよう。	【主体的に学習に取り組む態度】	【思考力・判断力・表現力】

5 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、『もっと作品に込めた心のイメージを表す形や質感、立体感を考えて表現したい』と試行錯誤することを通して、表現する喜びを味わう姿である。

本時の導入では、前時まで考えたアイデアスケッチを振り返り、主題（イメージする感情や感覚）により迫る形や質感、立体感について考える。主題を表す形について全体と部分との関係や、イメージを強調したり単純化したりする構成、石の質感、面の高低差の変化が感じられる資料を鑑賞し、自分はどのような表現をするか見通しをもつ。そして、前回描いたアイデアスケッチを交流する中で、主題に迫り切れなかった部分を、今回は追求していくということを確認する。中間交流の時間では、仲間と交流し互いに意見を交流し合ったり、参考作品から自分の作品に取り入れられるところを見つけたりして、作品をよくするための活動を自分で選択できる環境をつくる。そして後半追求では、前半のデッサンからさらによりよくしていくための工夫をしていく。そして振り返りでは、前半から後半にかけての作品の変容について、実感できるようにしていく。

6 本時のねらい

作品に込めた「心のイメージ」をより表現する形の構成・質感や立体感の組み合わせを考え実物大にスケッチする。

7 本時の展開

起/終	◇学習活動 ・生徒の意識、思考	□教師の指導 等
導入	1 課題づくり ◇前回までのプリントや資料を見返し、自分の主題や、そこから生まれた心のイメージを確認する。 ◇前回出たイメージから、どんな心の形ができたのか、ワークシートやデッサンを見ながらペアで交流する。 ◇教師の参考作品資料から主題に迫るための形や質感、立体感について考え、見通しをもつ。 もっと「(自分の主題)」を表す形・質感・立体感を考えてスケッチしよう。	□前回の内容について振り返る。 パワーポイントや掲示資料を用紙し、制作のときに見返ししやすいようにする。 □自分の作品を追求する見通しをもたせるために、教師の参考作品を見せ、主題に迫るために作品をどのように変化させていったのか紹介する。 □作品の変化の過程を掲示資料で見せることで、描く時の順序やポイントを視覚的に理解しやすいようにする。 追求意欲を生み出す指導 参考作品の鑑賞を通して、主題に迫るための表現方法の工夫や、変化の過程という視点を与え、自分の作品を追求する見通しをもてるようにする。
展開	2 前半追求 ◇主題をより強く表すためには、どのように作品を変化させていくといいのか、ペアで話し合う。 ◇前の作品を見ながら、主題に迫るため、再度形を練り直してデッサンする。 ◇中間交流の時間では、仲間と作品について話し合ったり、参考作品をみたりするなどして、作品をよりよくしていくための方法を考える。 3 後半追求 ◇中間交流から得た視点をもとに、再度アイデアスケッチの構想を練る。	□ペアで話し合うことで、作品をよりよくしていくための視点について理解し、見通しをもって制作できるようにする。 □中間交流の時間では、近くの人と話し合ったり、前の参考作品を見に行ったりするなど、一人一人が自分の作品の進捗や悩みに応じて、選択できる環境を設定する。 思考の深まりと技能の高まりを生み出す指導 自分の作品をよりよくしていこうという気持ちをもたせるために、中間交流の時間では、仲間と交流してアドバイスし合ったり、多様な参考作品を見て自分の作品に取り入れられるポイントを探したりするなど、自分の作品をよりよくするための方法を自分で選択できるようにする。
終末	5 振り返り ◇学習をまとめ、自分の作品について振り返る。 <教師が願う生徒の振り返り> 主題を表すために、前半は曲線でアイデアスケッチを描いた。中間交流で直線と組み合わせることで曲線のもつイメージをさらに強調することに気がつき、後半のスケッチでは、より強く主題に迫ることができた。 ◇アイデアスケッチを見せながら、振り返ったことを発表する。 ◇次時、アイデアスケッチを完成させ、石に転写し、形作っていくことを伝える。	□前回のアイデアスケッチから変容した生徒に発表させることで、個々の表現の変容を実感させ、自ら新しい表現を追求した姿を価値付ける。 高まり・深まりを実感する指導 前半と後半のアイデアスケッチの違いを確認し、作品の変容や主題に迫れた点について実感できるようにする。 【評価規準】 ・前時のアイデアスケッチをよりよくするための表現方法の工夫を追求し、自らの主題に迫ることができる。【思考力・判断力・表現力】 □次時の話をして、制作の見通しを持たせ、作品の追求意欲を生み出していく。

保健体育科 学習指導案

1 単元名 「バスケットボール」

2 単元の目標

知識及び技能	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バスケットボールの特性や成り立ち、技術の名称、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。
思考力・判断力・表現力	・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・バスケットボールに自主的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。

3 単元について

単元を貫く課題	単元導入時の指導	単元終末時の指導
空間を作り出したり、発見したチームの課題を解決するための工夫をしたりするゲームをしよう。	相手陣形が整う前にゴール前に運んだり、防いだりして、勝利を目指してゲームをできるように指導する。	空間を作ったり、使ったりし、チームでよい動きや改善点を伝え合いながら、仲間と協力してゲームに取り組むことができるようにする。

4 指導計画

時	・本時のねらい 評価規準【 】 ◎課題
1	・バスケットボールの安全な行い方やルールを確認し、仲間と協力してゲームに取り組むことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ◎ゲームをして、これからの見通しをもとう。
2	・守備より早くゴール前にボールを運ぶために、素早くゴール前の空いている場所に動くことができる。 【知識・技能】 ◎相手より早くゴール前にボールを運ぶために、素早くゴール前の空いている場所に動くゲームをしよう。
3	・相手の得点を防ぐために、ボールを持っている人をマークしたり、ゴールとボール保持者を結んだ直線状で守ったりすることができる。 【知識・技能】 ◎相手の得点を防ぐために、ボールを持っている人をマークしたり、ゴールとボール保持者を結んだ直線状で守ったりするゲームをしよう。
4	・パスアンドゴーやカットインを使って、空間を作ったり、使ったりしてゴール前を攻めることができる。 【知識・技能】 ◎パスアンドゴーやカットインを使ってゴール前を攻めるゲームをしよう。
5	・スクリーンを使って、空間を作ったり、使ったりしてゴール前を攻めることができる。 【知識・技能】 ◎スクリーンを使ってゴール前を攻めるゲームをしよう。
6	・ポストプレイを使って、空間を作ったり、使ったりしてゴール前を攻めることができる。 【知識・技能】 ◎ポストプレイを使ってゴール前を攻めるゲームをしよう。
7～9 (本時8)	・既習内容から、自己のチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを伝え合うことができる。 【思考力・判断力・表現力】 ◎リーグ戦に向けて、チームに合った作戦を考えて、ゲームをしよう。
10～12	・優勝を目指して、積極的に運動に取り組み、仲間と協力することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ◎これまでの学習を生かして、リーグ戦をしよう。

5 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、「自己のチームの課題解決に向けて、取り組みを工夫したり、自己や仲間の考えたことを伝えたりする姿」である。本時に至るまでに、速攻や守備、遅攻（スクリーンやポスト）を学習し、ボール前の攻防の知識・技能が高まっている。そこで、本時は自己のチームに焦点を当て、チームの課題解決に向けて工夫し、考えたことを伝えることをねらいとする。自己のチームの課題を解決するにあたり、自己のチームの強みや弱みといった特徴から速攻やスクリーン、ポストの役割分担や練習を重ね、試合で試して、改善するという学習に楽しさを感じられるようにする。そのために、自己のチームについての特徴や課題発見のための話し合いの時間確保、速攻やスクリーン、ポストの例示や自己の振り返りのための記録など工夫を施す。

6 本時のねらい

自己のチームの課題解決のために、速攻やスクリーン、ポストなどの既習内容を練習や試合に生かすとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝え合うことができる。

7 本時の展開

過程/時	◇学習活動 ・ 生徒の意識、思考	□教師の指導 等
導 入	1 課題づくり ◇既習内容を振り返り、本時の見通しをもつ。 ・前時までに学習した〇〇をすればもっと点が取れるかも ・前時うまうまできなかったから、本時は〇〇してみよう リーグ戦に向けて、チームに合った作戦を考えて、ゲームをしよう。	□安全面に気を付け、道具の準備や準備運動の指示をする。 追求意欲を生み出す指導 前時明確になったチームの課題をいくつか全体に提示し、どのように改善するとよいかを共有することで、本時の見通しをもたせ、追求意欲を高められるようにする。
展 開	2 チーム練習 ◇前時からのチームや自己の課題を確認し、練習を開始する。 ・前回ポストプレーだけではうまくいかないときがあったから、動きを確認しよう。 ・前回とは違う作戦のスクリーンをかけてゴール前を空ける動きを確認しよう。 3 試合(6→1→6→2→6→1→6) ◇1Q6分、Q間は1分、ハーフタイムは2分、審判2名、選手交代あり、記録係あり 4 中間振り返り(Q間やハーフタイム) ◇試合を振り返り、次の打ち合わせをする。 ・Aさんのポストが上手くいっている。ポストにボールが入った後、人が集まってくるから周りの人を良く見てパスを出すのもあり。 ・スクリーンをかける時にタイミングが合わないから、合図を決めて、その時にスクリーンをかけにいこう。また、スクリーンをかけてシュートを打てないときには、やり直すのもいいね。	□作戦の動きを確認しているグループに「ゴール前に広い空間を作るため」や「ボール保持者が進行できる空間を作るため」「パスを出した後に次のパスを受けるため」にどう動くかとよやかに注目して、アドバイスする。 思考の深まりと技能の高まりを生み出す指導 「コートの中のどの場所に空間があるか」という視点を与えることで、空間を認識でき、空間を作ったり、使ったりすることができるようにする。 □空間の認識が苦手な生徒には、コートのどこに人が集まっているのか、コートのどこに空間を作りたいのかという視点を与え、そのために誰がどんな動きをするとよいのか、試合から振り返るよう促す。
終 末	5 振り返り ◇試合の中でよかった動きと改善点に分けて、振り返る。 <教師が願う生徒の振り返り> 作戦 A が上手くいき、たくさん得点することができた。でも途中から相手チームに対応されてしまい、なかなか得点することができなかった。でもそんなときに B さんがフリーになりやすい場所を見つけ、教えてくれたことで得点を増やすことができた。	深まりと高まりを実感する指導 チームの良かった動きや改善点を試合中や試合間の時間に伝えていたり、それを聞いて修正したりしている姿を取り上げ、価値付け、深まりと高まりを実感できるようにする。 【評価規準】 自己のチームの課題を解決するために、既習内容を練習や試合に生かすとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力】

家庭科 学習指導案

1 単元名 私たちの衣生活

2 教材名 衣服の手入れ

3 単元の目標

知識及び技能	・衣服の材料や汚れ方に応じた、日常着の手入れの仕方について理解することができる。
思考力・判断力・表現力	・日常着の手入れの仕方について、家庭での実践計画を考え、工夫することができる。
主体的に学習に取り組む態度	・自らの衣生活に関わる問題解決とその過程を振り返って、よりよい衣生活となるよう他者と協働して粘り強く改善・修正し実践しようとしている。

4 単元について

単元を貫く課題	単元導入時の指導	単元終末時の指導
快適で持続可能な衣生活を送るには、どうすればよいだろうか。	自分の衣生活を振り返りながら、資源や環境に配慮してよりよい衣生活を送るために、知識を身に付け工夫できるようにする。	自己の課題とその解決方法を考え、衣生活を工夫しながら実践できるようにする。

5 指導計画

時	・本時のねらい	評価規準【 】	◎課題
1	・快適で持続可能な衣生活を送るために、衣服の選択、日常着の手入れ、衣服の再利用などについて問題を見いだしている。 ◎快適で持続可能な衣生活を送るには、どうしたらよいだろうか。		【思考力・判断力・表現力】
2	・衣服は、いつ、どんな時に着用しているのかを交流する活動を通して、自分の衣生活と結び付けることができ、衣服の働きや社会生活との関わりについて理解することができる。 ◎私たちは何のために衣服を着用するのだろうか。		【知識・技能】
3	・着用場面を設定し、自分ならどのような衣服の着方をするのかを交流する活動を通して、衣服の着用には目的に応じ、個性を生かす着方が大切であることに気づき、自分らしい着方を理解し、着こなしの工夫を考えることができる。 ◎自分らしい着方をするためには、どんなことを大切にするとよいのだろうか。		【知識・技能】
4	・衣服の過不足や処分を考えることを通して、着用しなくなった衣服を再利用したりリサイクルしたりするなど、衣服を計画的に活用する必要があることを理解することができる。 ◎十分に活用できる服を購入するためにどのようなことを考えるとよいだろうか。		【知識・技能】
5	・衣服の表示を確認する活動を通して、組成表示やサイズ表示の意味を理解し、衣服を適切に選択することができる。 ◎十分に活用できる服を購入するためにどのようなことを考えるとよいだろうか。		【知識・技能】
6	・衣服の材料や汚れに応じた日常着の手入れを調べる活動を通して、洗濯方法等を理解することができる。 ◎衣服の適切な手入れをするためにはどうしたらよいだろうか。		【思考力・判断力・表現力】
7 (本時)	・汚れに合った落とし方があることに気づき、衣服を適切に手入れすることができる。 ◎衣服の汚れを落とすためにはどうしたらよいだろうか。		【知識・技能】
8	・衣服の実習を通して学んだことを交流し、持続可能な社会に向けて自分の考えをもつことができる。 ◎衣服を長く大切に着るために、自分がすべきことは何だろうか。		【知識・技能】
9	・衣生活について振り返り、交流する活動を通して、環境や資源に配慮した衣生活を送るための考えや方法を理解し実践することができる。 ◎快適で持続可能な衣生活にするためにはどうすればよい提案しよう。		【主体的に学習に取り組む態度】 【思考力・判断力・表現力】

6 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、「自らの課題意識をもちその解決に向けて、さまざまな工夫を考え実践しようとする姿」である。

本時の導入では、衣生活に関する課題意識から、課題を解決して豊かで快適な生活を送ろうとする発言や反応が見られると予想される。そこで、「どのような汚れでも同じ落とし方でよいのか」という問いかけること、前時までに学んできた衣服の繊維の種類ごとの特徴を踏まえて考えられるようにしたい。展開では、前時課題として選んだ汚れの同じ生徒同士でグループを作り、課題解決に取り組む。必要なものは準備をしておき、どうすれば汚れが落ちるか、生徒が道具や落とし方を考えることで、主体的に取り組むことができると考える。終末では、課題に基づいて、実習で分かったことを踏まえながらまとめる。また、次時の班交流に向け、自分の考えをわかりやすく伝えられるようにしておく。

7 本時のねらい

汚れに合った落とし方があることに気付き、衣服を適切に手入れすることができる。

8 本時の展開

観/指	◇学習活動 ・生徒の意識、思考	□教師の指導 等
導 入	1 課題づくり ◇前時を振り返りながら課題を確認する。 課題 衣服についたしみはどのように落とせばよいのだろう。 ・しみの種類によって落とし方が違うと思う。 ・前回の考察の通り、本当にしみが落とせるのか、自分でやってみたい。	追求意欲を生み出す指導 問いに対する生徒の反応を聞きつつ、前時で追求した課題を再確認し、実習を通して実践する中で根拠を基に解決方法を明らかにできるようにする。
展 開	2 追求 ◇【実習】自分が選んだ種類のしみを落とす。 (ケチャップ・しょうゆ・カレー・チョコレート・紅茶・ソースから選ぶ) ・油溶性だからやっぱり水だけでは落ちないな。 ・意外とこする回数が多くて大変だな。 ・前回学んだように、輪染みにならないように周りから落とそう。 ◇前時の考察と合わせながら、3つの観点(落とし方・使った洗剤の量・水温)を中心に班で考えを交流する。 ・歯ブラシを使わなくても、タオルでただくだけで落ちたよ。 ・洗剤は少なくてもきれいに落とせたよ。たくさん使うと洗い落とすのに時間がかかるし環境によくないな。 ・水よりぬるま湯の方が早くしみが落ちたよ。水しか使えないときは水でもいいね。	□道具の準備は事前に行い、生徒が自らの考えで自由に実習に取り組めるようにする。 □生徒が安全に実習できるよう机間指導を行い声かけする。 □3つの観点(落とし方・使った洗剤の量・水温)を意識して取り組めるよう声かけをする。 思考の深まりと技能の高まりを生み出す指導 3観点に基づき、工夫しながら汚れを落としたり、仲間の実習方法から気付きを得たりしていく中で、自分の考えに変容をもてるようにしていく。
終 末	3 振り返り ◇班での交流をクラス全体で共有する。 まとめ 汚れの種類や衣服の材料によって汚れの落とし方が違う。しみがついたら早く手入れして、汚れを落とすことが大切である。 <教師が願う生徒の振り返り> ・衣服についた汚れの種類によって落とし方が違うから、それぞれの特徴を理解して家庭でも実践したい。 ・今までは汚れがついても家の人に洗ってもらっていたけど、これからは汚れたら自分で手入れをして、大切に長く衣服を使いたい。	深まりと高まりを実感する指導 前回、資料を基にした自分の考えと実習を通して得た気付きを組み合わせて課題解決の方法を全体で共有できるようにする。 【評価規準】 ・日常着の手入れの仕方について理解し、衣服の手入れの技能を身に付けている。 【知識・技能】

英語科 学習指導案

1 単元名 Unit8 A Surprise Party

2 単元（節）の目標

知識及び技能	・現在進行形を用いた英文の形・意味・用法を理解し、実際のコミュニケーションにおいて、自分の考えや気持ちなどを相手に伝えることができる。
思考力・判断力・表現力	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、既習の語句や文を使って表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	・既習の言語材料を用いて、間違いを恐れることなく、積極的に自分の意見を伝えたり書いたりしようとしている。

3 単元（節）について

単元（節）を貫く課題	単元（節）導入時の指導	単元（節）終末時の指導
ALT に自分が熱中して取り組んでいることについて英語で伝えたり、たずねたりしよう。	JTE のプレゼンテーションを観る活動を通して、自分も ALT に、熱中して取り組んでいることについて伝えたいという思いをもつ。	既習の言語材料や仲間と対話をしたこと等を基に、工夫の見られるプレゼンテーションができるようにする。

4 指導計画（節）

時	・本時のねらい ◎課題	知	思	態	備考
1	・JTE のプレゼンテーションを観る活動を通して、自分も ALT に熱中して取り組んでいることについて伝えたいという意欲をもつとともに、単元の見通しをもっている。 ◎先生のプレゼンテーションの内容を理解しながら聞き取ろう。			○	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して
2 (本時)	・現在進行形を用いた本文を読解したり、登場人物の対話を読んだりする活動を通して、文法の用法や意味について知ることができる。 ◎自分が今していることについて伝えよう。	○			生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
3	・英作文を通して、現在進行形の意味・用法を理解し、自分の考えや気持ちなどを相手に伝えることができる。 ◎ペアと今取り組んでいることについて話したりたずねたりしよう。	○			
4	・ジェスチャーゲームを通して、現在進行形を使う場面を想定して、仲間とコミュニケーション活動に取り組むことができる。 ◎ペアやグループで、ジェスチャークイズを楽しもう。		○		
5	・感嘆文を用いて驚きや喜びなどの気持ちを表現することができる。 ◎自分の驚きや喜びを仲間に伝えよう。		○		
6	・仲間と学校生活の一場面を切り取った写真について伝え合う活動を通して、現在進行形や既習の言語材料や会話表現を活用して、その場面の様子を即興で伝え合うことができる。 ◎学校生活の一場面をレポートし合おう。	○			
7	・自分が熱中して取り組んでいることについて、現在進行形を使って、ALT に即興で伝えることができる。 ◎ALT に自分が熱中して取り組んでいることについて紹介しよう。	○	○	○	

5 本時の指導の構え

本時、学ぶ楽しさを味わった生徒の姿は、「現在進行形を使う必要性を感じ、ALT とのやりとりを通して活用できた姿」である。導入では、JTE や ALT とのやり取りの中で現在進行形について、コミュニケーション活動を通して用法や意味について知ることができるようにする。展開では、現在進行形を用いた本文の Reading 活動を通して概要を確認したり、現在進行形の文法を正しく活用したりできるように見届けも行う。終末では、ALT と生徒のやりとりの中で現在進行形の使い方について確認をしたり、それを用いた Writing や Speaking 活動を取り入れたりすることで、新出の現在進行形を使ってやりとりをすることができたという実感をもたせたい。

6 本時のねらい

現在進行形を用いた本文を読解したり、登場人物の対話を読んだりする活動を通して、文法の用法や意味について知ることができる。

7 本時の展開

題/解	◇学習活動 ・生徒の意識、思考	□教師の指導 等
導 入	1. Warming-Up ALT: Hello. This is Ishak. JTE: Hello. This is Momoko. What's up? ALT: Are you free today? JTE: No. I am cooking curry. ALT: Oh, you are cooking curry. I like curry!! Can you eat it? JTE: OK. See you later. ◇JTE とのやりとりの中で新出文法を知る。 JTE: 聞き取れた内容を教えて。 STU: cook curry JTE: そう! "I am cooking curry." っ ていたね。今日は be 動詞と ing を一 緒に使う文法について習うよ。 2. Reading Activity / Grammar Check ◇現在進行形の用法や意味について確認する。 JTE: be 動詞と動詞の ing 形を組み合わせ ると、今、まさに進行している動作に ついて表現できるよ。この文法を現 在進行形と言うよ。 STU: I see. ◇学習者用デジタル教科書とワークシートを使 って本文の読み取りを行う。	□コミュニケーション活動を通して、本時の新 出文法の用法について気付くことができるよ うにする。 追究意欲を生み出す場の設定と指導 学習者用デジタル教科書を使って教科書 本文の概要をつかみ、学習者が自分のペー スで新出文法に着目できるようにする。 □机間指導を行い、必要があれば、新出文法の 用法について個別に指導をする。
展 開	自分が今していることについて伝えよう。 3. Speaking Activity ◇写真を使って ALT と現在進行形を使ったやり とりを行う。 ALT: What are you doing? (写真を見せながら) STU: I am studying. ◇実際に現在進行形を使われると想定される場 面での対話を ALT と行う。 ALT: Hello. This is Ishak. STU: Hello. This is OO. ALT: Are you free today? STU: No. I am studying English. ALT: OK.	思考の深まりと技能の高まりを生み出す場 の設定と指導 前半の Speaking Activity で、同じパター ンで何度もやりとりをする中で、現在進行形 を使うことで、今している動作について伝え られることを理解させ、後半の Speaking Activity に生かせるようにする。 深まりと高まりを実感する場の設定と指導 ALT とのやりとりの活動を通して、新出文 法の現在進行形を使って、実際に現在進行形 を使われると想定される場面でコミュニケー ションをすることができたという実感をも てるようにする。
終 末	4. Evaluation ◇本時の学びを振り返る。 〈教師が願う生徒の振り返り〉 現在進行形をどのように使えばよいか が分かった。また、それを用いて、Ishak 先生 とやりとりをすることができた。	【評価規準】 現在進行形の用法や意味を理解し、やりと りをするができる。 【指導に生かす評価】【知識・技能】